

平成 30 年度 国有林モニターアンケート（第 2 回）

国有林野事業に対するご関心や情報発信のあり方等にご意見・ご要望を伺い、国有林野の管理経営やモニター制度運営の参考とさせていただくことを目的として、国有林モニターの皆様を対象に、平成30年度第2回国有林モニターアンケートを実施いたしました。

つきましては、本紙にてその結果についてご報告させていただきます。なお、本アンケートには、国有林モニター51名の皆様からご回答をいただきました。多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。

- アンケート実施時期：平成31年1～2月
- アンケート実施対象：九州森林管理局の全国有林モニター52名
- アンケート回答者数：51名（回答率98.1%）

※年齢別内訳

	人数	比率 (%)
30代以下	5	9.8
40代	7	13.7
50代	9	17.6
60代	24	47.1
70代以上	6	11.8
計	51	100

I 国有林モニター活動について

1年間のモニター活動を振り返って、「①期待以上の活動ができた」、「②期待したとおりの活動だった」、「③期待外れだった」の3つの選択肢のうちから1つを選択していただいたところ、最も回答が多かったのは②で27人（53%）であった（図1）。「期待以上」や「期待どおり」と答えた方は、森林・林業に関する事や林野庁、九州森林管理局が行っている仕事（特に災害発生時）に関して新たな知見を得ることができたこと等を、「期待外れ」と答えた方は、双方向の情報交換を行いたかった、積極的な活動ができなかった等を、理由として挙げていた。

選択肢ごとの理由（一部抜粋）

① 期待以上

- 国有林や林野庁について、想像以上の仕事をしていることを知ることができたため
- 九州北部豪雨被災地の森林・林業の再生に向けた取組を知る事ができたため
- 森林に関して得られる情報が格段に増え、森林行政等について細部まで分かるようになったため

② 期待どおり

- 森林・林業や林野庁について、知るきっかけとなったから
- 林野庁や九州森林管理局の活動を、広報誌やモニター会議を通じて実際に体験できたから
- 森林・林業に関する知識が増え、自身が行っている森林に関する活動に幅ができたため

③ 期待外れ

- 日程の都合によりモニター会議に出席できず、広報誌等を読む以外に何もできなかったため
- 双方向の情報交換ができず、物足りなさを感じたため
- これといった「活動」ができなかったから

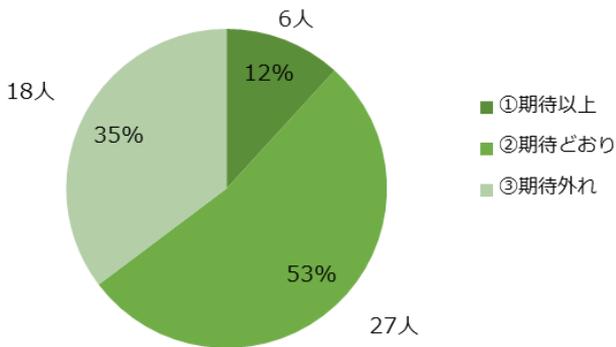


図1：モニター活動を振り返って

また、国有林モニターを経験したことをきっかけに、新しく取り組んだ活動を「①知見等をさらに深めるため、情報収集など勉強を行った」、「②今まで訪れた事のなかった国有林に訪れた」、「③活動を通じて知った事等について、知人に話すなど第三者への情報提供を行った」、「④森林や林業について、より興味を持つようになった」、「⑤特になし」、「⑥その他」のうちから選んでいただいた（複数回答可）。最も回答が多かったのは④で42人（82%）、その後③28人（55%）、①12人（24%）と続いた（図2）。⑥と回答した中には、森林インストラクターとして森林環境教育に一層従事した、地域ボランティア（防災担当）として森林伐採や清掃等に従事したといったものが見られた。加えて、「①知見等をさらに深めるため、情報収集など勉強を行った」と答えた方について、具体的な勉強方法を尋ねたところ、本やインターネット（白書や当局HPを含む）のほか、地域の学習会等へ出席したなどの回答も見られた。あわせて、「②今まで訪れた事のなかった国有林に訪れた」と答えた方について、訪れた場所を尋ねたところ、由布岳や栗野岳、くまもと自然休養林などが挙げられていた。

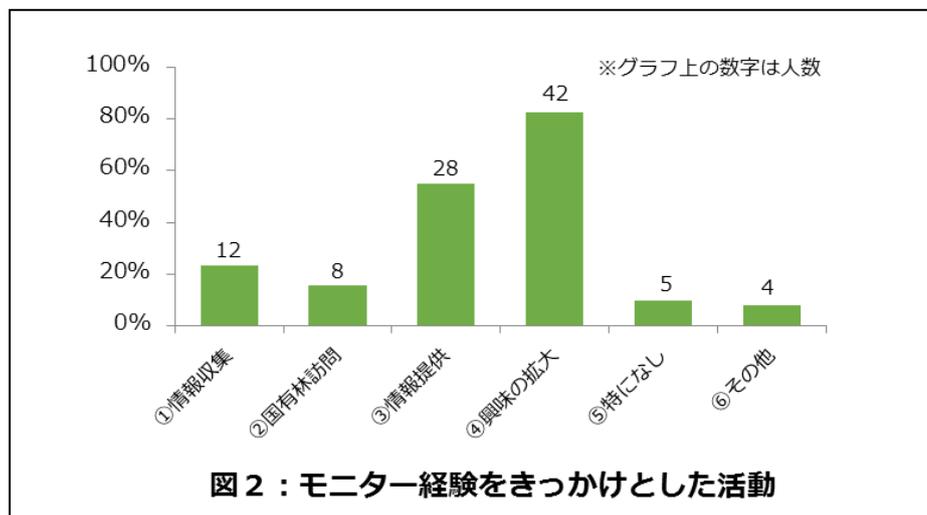
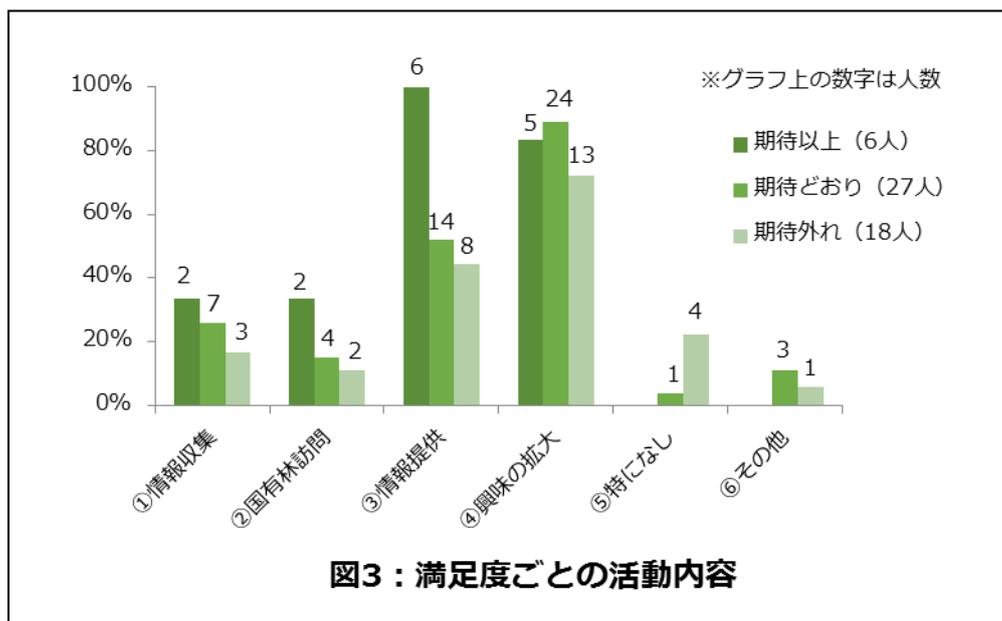


図2：モニター経験をきっかけとした活動

モニター活動の満足度と、新しく取り組んだ活動との間の関係を見るため、「期待以上」、「期待どおり」、「期待外れ」のグループごとで、どういった活動に取り組んだかを図3に示す。これを見ると「期待以上」グループの全員が、「③情報提供」を行っていることが分かる。このほか、「①情報収集」や「②国有林訪問」など具体的な行動を行った方の割合が、他グループに比べ高い傾向が見られた。「期待どおり」グループと「期待外れ」グループは似た傾向を示したものの、「期待どおり」グループでは、「④興味の拡大」と答えた方の割合が高く、27人中24人と9割近くにのぼる結果となった。また、「期待外れ」グループの方々においても、3分の2以上の方が「④興味の拡大」と答え、半数近くが「③情報提供」と答えるなど、なんらかの活動等を行っていることが明らかになった。



II 国有林モニター会議について

今年度のモニター会議は、平成29年7月に発生した九州北部豪雨の被災地の被害状況、及び民有林の早期復旧に向け九州森林管理局が行っている事を視察していただくこと目的として開催した。

まず、モニター会議に出席した方について、その満足度を「①期待以上だった」、「②期待どおりだった」、「③期待外れだった」のうちから1つ選んでいただいた。最も回答が多かったのは、①で10人（38%）、次いで③が9人（35%）、②が7人（27%）という結果となった（図4）。モニター会議に参加した方の過半数が期待以上もしくは期待どおりと答えていることがわかるが、その理由としては、普段目にすることができないものを見たことや、イメージの無かった林野庁の仕事を知ることができた等が挙げられていた。一方、期待外れだった理由としては、スケジュールがタイトで慌ただしかったことや、意見交換の場が無く視察に終始したためといったものがあった。

その他、モニター会議に関して気づいた点等を尋ねたところ、モニター同士のコミュニケーションの場が欲しかった、意見交換の時間が欲しかったといった意見が多く寄せられた。一方、災害や森林行政の必要性を地域の生の声を通して学ぶことができ、非常に貴重な機会だったといった声もあり、教師をされているモニターの方からは、モニター会議を経て学んだ森林の役割について、数回授業を行ったとの報告もいただいている。

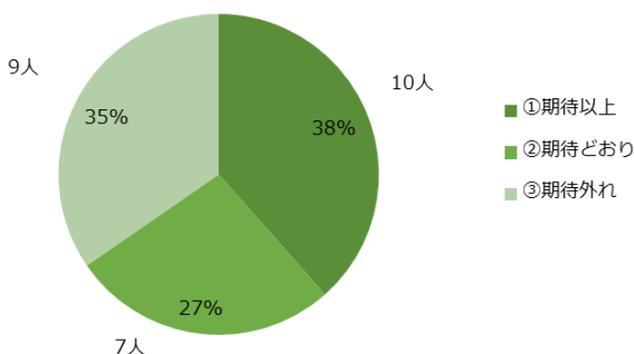


図4：モニター会議を振り返って

選択肢ごとの理由（一部抜粋）

① 期待以上

- 災害復旧事業について、大変勉強になったから
- 通常は立ち入ることのできない場所へ立ち入り、自然災害の甚大さを身をもって知る事ができたため
- 実際に被害に遭われた住民の声を聞き、改めて考える機会を得たから

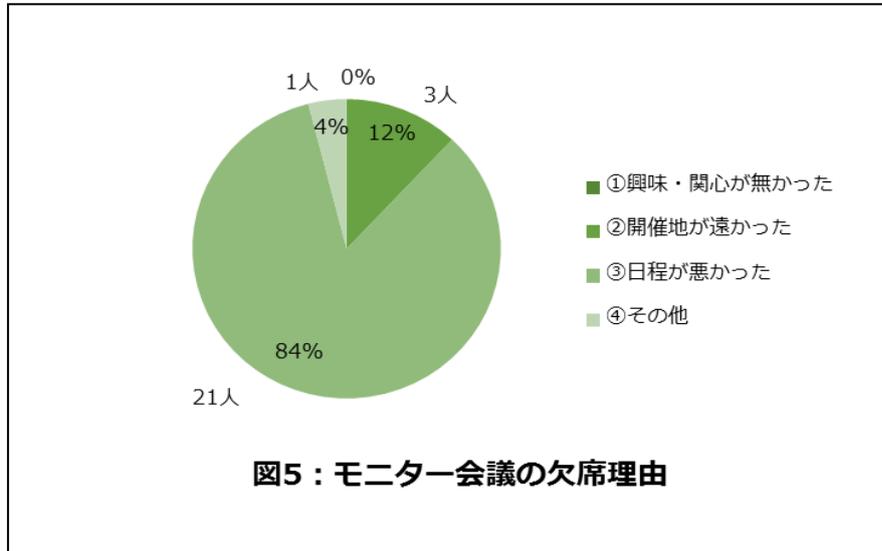
② 期待どおり

- 被災地にはボランティアで何度も行っているが、他の多くのモニターの方にも現状が伝わったと思うから
- 被災現場を間近で見たり、被災者の方の話を聞くなど得がたい経験ができ、期待どおりだった
- ダムといえば国交省のイメージであったが治山事業として林野庁も力を入れているなど、林野庁が行っている事業を初めて知る事ができたため

③ 期待外れ

- 現場を見ることができたのはよかったが、時間が短く慌ただしかった
- 今回の視察先は、見たいものではなかった
- 視察が主となっており、「会議」としての意見交換の場がなかったため

モニター会議を欠席された方について、その理由を「①内容について興味・関心を持てなかった」、「②開催地が遠かった」、「③日程の都合が悪かった」、「④その他」のうちから1つ選んでいただいたところ、最も多かった回答は③で21人（84%）、その後②3人（12%）、④1人（4%）と続き、①を選んだ方は0人だった（図5）。



Ⅲ 国有林モニター制度について

国有林モニターとして1年間活動された中で気づいた点、モニター制度に関する意見等を尋ねた。回答（一部抜粋）は以下のとおり。

広報誌関係

- 紙の郵送ではなく、PDF等電子化して送付してはどうか。情報誌林野の電子書籍化をしてみてもいい
- 専門用語等分からない単語があるので、その解説などがあると助かる
- 一般参加可能な林野関係のイベントがあれば、誌面等にてその予定を知らせて欲しい

モニター会議関係

- 九州全体のもの以外に、ブロック別などでも会議を開催して欲しい
- 視察だけではなく、意見交換やモニター同士が交流できる時間を作って欲しい
- 年に複数回開催して欲しい

その他

- モニターとして、若者や教育者の参加を促して欲しい
- 高校生等若者の関心を高める取組（出前授業）等を行ってはどうか

本年度の具体的な活動内容に注目すると、モニター活動・モニター会議とも共通して、意見交換会等のモニターの声を当局に伝える機会や、モニター同士で意見交換を行える機会を作って欲しかったといった要望が多かった。モニター会議では、当局がどのような取組を行っているかをよく知っていただく目的から、現地視察に主眼をおいたスケジュールとした結果、各視察地での質疑応答以外に、モニターの方々から意見を聞く意見交換会のような時間をとれなかった。今後、会議開催にあたっては、スケジュールの調整を図りたい。また、モニター会議だけではなく、モニターアンケートや広報九州におけるモニターの声も意見発言の場であるので、今後ともそのような機会も活用して意見をお聞きしていきたい。モニター会議の回数を増やして欲しい、ブロック別でも開催して欲しいといった意見も見られたが、これに関してはモニター会議だけでなく、各署で行われる一般参加型のイベント等を周知することによって、国有林に触れていただく機会を提供していきたい。

広報誌関係では、電子データでの配布や電子書籍化について提案があった。広報誌については写真が多く容量が大きいため、メールでの送付は難しいが、当局HPや林野庁HPからダウンロードが可能であるため、URL等のアナウンスを行うことで対応していきたい。また、専門用語については、なるべくわかりやすい表現となるよう努めていくと同時に、昨年12月に送付させていただいた「平成29年度国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」（通称、「ミニ白書」）内に用語一覧が付されているので、そちらもご覧いただければと考えている。

また、担い手不足に対する危機感から「次世代の森林・林業を担っていく若者やその若者を教育する教師の方をモニターとしてもっと巻き込むべき」や「高校等で森林・林業について教育する出前授業の様なものを作ってはどうか」といった提案が見られた。現在、モニターの募集については20歳以上の方を要件としており、高校生のモニターは存在しない。ただし、モニターの中には教師の方もおり、モニター会議で学んだことについて、授業を行ったという報告もいただいている。これは一例に過ぎないが、こういった活動を行ってくださる方がさらに増えていくよう、当局としてもしっかり情報発信を行っていく必要がある。また、出前授業については、森林教室という形で各森林管理署担当者が地域の小・中学校、高校で森林環境教育等を行っている。こういった活動についても、今後モニターの方々に周知していきたいと考えている。

IV まとめ

今まで分からなかった森林・林業のことや林野庁・九州森林管理局の取組を知る事ができたという理由などから、モニター活動及びモニター会議の両方で、過半数の方が「期待以上」又は「期待どおり」としているが分かった（図1、4）。また、モニターの過半数の方が、モニターを通じて学んだことを第三者へ情報提供しているということも分かった（図2）。これらの事から、我々が行っている取組を周知していくという意味において、モニター制度は一定の成果があったといえる。モニター活動を振り返り「期待以上」と答えた方は、全員が周囲への情報提供を行ってくださっていたが（図3）、「期待どおり」や「期待外れ」を選んだ方々についても、第三者への情報提供を行っていただけるよう、積極的な情報発信に努めていきたい。

今回いただいたご意見については、Ⅲ章にて大まかにまとめた。モニター制度や広報活動に関する有意義なご意見が多数寄せられていた。いただいたご意見は、必ずしもすぐに対応できるものばかりではないが、国有林野の管理経営に反映すべきものについては、順次対応していきたいと考えている。

アンケート結果は以上となります。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<連絡先>

住 所： 〒860-0081 熊本県熊本市西区京町本丁2-7
九州森林管理局 総務企画部 企画調整課
電 話： 096-328-3511
メール： ky_kikaku@maff.go.jp
担当者： 山本